



宮司プレス 10月号

彦島八幡宮 宮司 ニューズ

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十七年 三月二十一日

◇宮司の柴田です。

平成十八年六月五日より毎月一回の発行を始めた宮司プレス、平成二十五年十二月まで、九十一ヵ月連続発行を続けてまいりました。順風満帆(じゅんぷんまんぱん)な船出もあり、航海であつたわけですが、平成二十六年二月の一月遅れを皮切りに、いたずらに時は流れて、宮司プレスが発行されないという「魔の五ヶ月」という空白の時間を生じました。宮司プレスも、とうとう座礁(ざしょう)してしまつたのです。軌道の修正をはかるべく、幾度となく発行計画を練り直しましたが、一月に一回のペースを保ちたいという願いもむなしく、現状維持が精一杯、五ヶ月遅れのままの状態でありま

す。「駿馬(しゅんめ)」、すぐれてよく走る馬は、千里を駆けるのかもしれませんが、私は、「驚馬(どば)」、歩みののろい馬でありますから、もう、起動の修正をはかるという目標にこだわらず、一步一步着実な歩みを心がけ、千里を目指したいものです。平成二十年秋に米国発で起きた金融危機(リーマンショック)の後に、欧米の投資家らの間で「以前とは別物の経

済が当たり前になつた」との見方を意味する

「ニューノーマル」という言葉が流行しました。中国では、習首相が、持続可能な成長軌道に移る過渡期として、経済構造改革の旗印に、この

「ニューノーマル」という概念の中国語訳の「新常态」を使用するようになったそうです。これからの、私の宮司プレスの発行は、「魔の五ヶ月」という危機を乗り越えて、さらには、

一月一回のペースを取り戻すという新たな成長戦略を迎えているという、「ニューノーマル」「新常态」であります。◇紀元前二百年、周の国の末期から秦、さらに

漢の国の時代の儒学者(じゅがくしゃ)の古礼(こらい)に関する説を集めた書で、「五経(ごきょう)の一つでもある「礼記(らいき)」には、「大事を作(おこ)して、もつて農(のう)の事を妨(さまたぐ)るなし」と書かれていますが、これは、農事の開始は正月で、農事に、とても大事な月である二月に、国家が、大事業を始めると(この編纂(へんさん)された頃は、春秋戦国の時代、群雄割拠(ぐんゆうかつきよ)でありますから、他国との戦(いくさ)のこと

でしよう)、農業の妨げになるという意味です。新年を迎えて年度末に至るまでの慌しい歳月の流れの早さを、一月は、「いぬる」、二月は、「にげる」、さらに三月は、「さる」と喩(たと)えられます。しかしながら、前述(ぜんじゆつ)の礼記の記述のとおり、矢のごとく過ぎ去つた一月、二月の歩みは、大切だったので。◇さて、今年(ことし)は、「年内立春(ねんないりつしゆん)」でありまして、旧暦の正月を迎えていないのに、新暦では、立春を迎えているという不思議な年回りです。先月の十九日が、旧正月であり、昨日の三月二十日が、旧暦の二月一日でした。したがって、当宮で先月の十七日に斎行した祈年祭(きねんさい)は、旧暦では、年も明けていない年の瀬ということになるわけで、かなり、違和感があります。春の枕詞(まくらことば)に、「冬籠(ふゆごも)り」というのがありますが、前述(ぜんじゆつ)した春祭りである祈年祭に向けて、斎戒沐浴(さいがいもくよく)、身を清めて心静かに過(す)す、力を蓄えるという意味です。今でも六連島(むつれじま)では、正月の事を「初籠(はつごも)り」といっています。秋の収穫の豊作を予(あらかじ)めお祝いする「予祝(よしゆく)」の神事が祈年祭です。豊作となるよう努力することをお誓いする、稔(と)りの秋を迎えるためには、総力の結集が必要であります。人

知の及ばないところには、神のご加護を仰ぎ、天命を待つという営みがあるわけです。その最初の出發であるのが、礼記で言うところの二月であるわけです。

◇十五世紀のイタリアの政治思想家であるマキアヴェリは、国家を存続させようとする意思を「徳(ヴィルトウ)」とよんで、市民の徳が国家の基盤だと論じました。中国の春秋戦国時代でも、人の最大の力は徳にある、「徳を念い(おも)いて怠らず、それ敵すべけんや」と説かれ、大いなる徳は無敵であると考えられました。その「徳」とは、すべての善行、道徳にかなった行いのことです。神様に祈り、誓いをして努力を怠らず、神のご加護を信じて天命を待つという、敬神生活こそ、日本人の「徳」の一つといえるのではないのでしょうか。人口減少、社会保障や財政の悪化などの課題に、世界に先駆けて直面する「課題先進国」である日本でありますから、「冬籠り」という枕詞にこめられた日本人の「徳」でもって、乗り越えていかなければならないと思います。ご自愛ください。

二月の祭典行事報告

▼月次祭 *二月一日、十五日

▼節分祭 *二月三日

(下の写真)



▼建国祭 *二月十一日

◆彦島八幡宮 午前十時

◆下関市 午後二時十分

▼福浦稻荷神社初午祭 *二月十五日

(右の下の写真)

▼祈年祭

◆彦島八幡宮 *二月十七日

◆六連島八幡宮 *二月二十五日

◆田の首八幡宮 *二月二十七日

▼サンデンプラス新車お祝い *二月十九日

▼横浜DeNAベイスターズ下関ファン集

いの会参拝 *二月二十一日

▼彦島八幡宮第二十代宮司柴田八十二大人

命(やさじ うしのみこと) 二十五年祭

第二十一代宮司柴田典行大人命(のりゆき

うしのみこと) 十年祭、第二十代宮司夫人

柴田輝子刀自命(てることじみこと) 十

五年祭の霊祭(みたままつり) 斎行

*二月二十五日

*二月二十五日

◇二月の宮司の行事会議等活動報告

▼八幡宮関係団体

◇維蘇志会節分準備作業 *二月二日

◇八幡宮リーグ打合せ *二月六日

◇建国祭奉仕の維蘇志会反省会

*二月十一日

◇神道会常任委員会 *二月二十二日

◇維蘇志会役員会 *二月十七日

▼山口県神社庁、同下関支部関係

◇下関支部三役会 *二月四日

◇支部幹事会 *二月五日

◇建国青年の集い *二月七日

◇神社庁役員会 *二月十二日

◇支部長事務局長会議 *二月十三日

◇神社庁例祭 *二月十三日

◇山口県神社庁駐在教誨師会

*二月二十三日

◇神宮大麻都市頒布向上計画対策委員会

*二月二十四日

▼西ロータリークラブ

◇市内五ロータリークラブ合同例会

*二月四日

◇インターシテイミーティング

*二月二十二日

▼地元迫町自治会活動

◇役員会 *二月十八日